

# 学びを暮らしに生かす

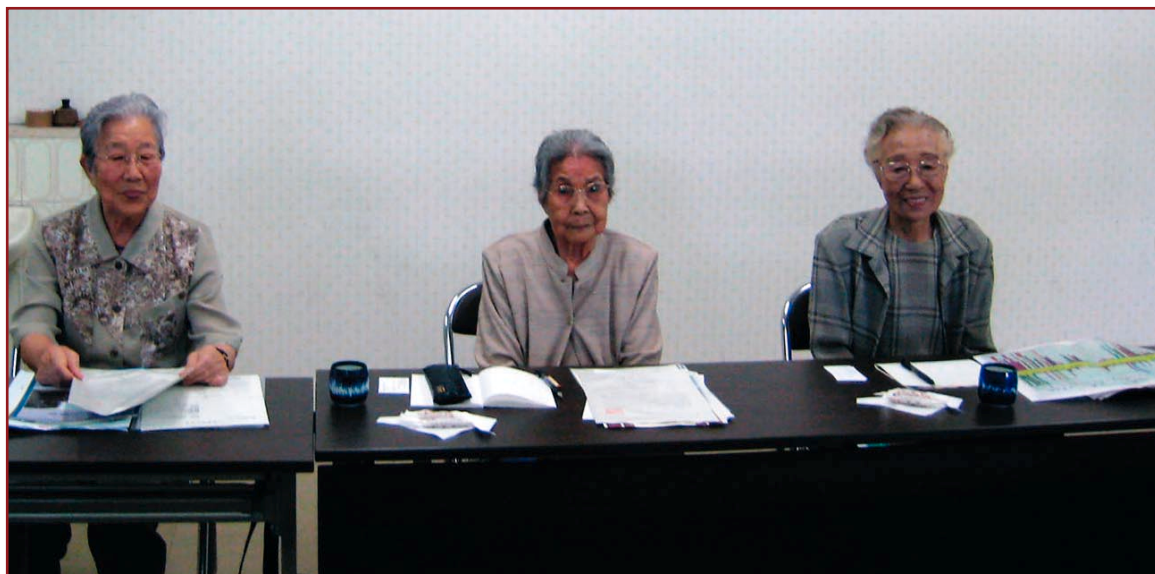
最終年、昭和31(1956)年度の婦人学級の課題は、2年間の成果を踏まえた「稲取町の足どりをしらべる」に発展していきました。前年度、暮らしをよくするために自分の生活を調べ、経済・生活の諸問題や、生産上の改善点をつかんだ学級生は、更に深く自分達の生活の根源をさぐるため、稲取町の歴史をしらべることになりました。

広範な内容について、古老、先輩からの聴き取り、古文書などの調査と、グループごとの共同学習が進められ、どの項目についても詳しい調査がなされました。この学習の過程を通して、全町的生活改善運動への協力の気運も高まってきました。

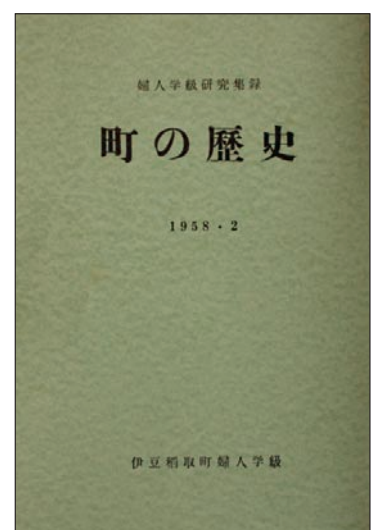
この「まちの歩み学習」の研究成果は、昭和33(1958)年2月、『町の歴史:婦人学級研究集録』(伊豆稲取町婦人学級)として刊行されました。「編者あとがき」で三井為友氏は「この本は日本でもはじめての、いや、世界でもはじめての、家庭の平凡な主婦が書いた郷土の歴史の本です。」と言い、誇りをもって子孫に残したい、そして「より美しい明日にむかって手をつないで歩こうと思います。」と結んでいます。

## 学級参加者へのインタビュー

本展示に先立ち、当時学級生として参加された3人の女性たちにインタビューを行いました。平成19(2007)年現在、多くが90歳代となった参加者たちは、インタビューに答え、その後の人生における学級の意義について語っています。



学級参加者(平成19年9月24日 東伊豆町役場にて)  
左から、嶋津好江さん、齋藤芳乃さん、中村みつさん



『町の歴史』復刻版  
(東伊豆町文化協会, 平成16年)